DISAG　RM　Ⅳ　操作手順 （訳、抜粋）

このたびは DISAG RM Ⅳ をお買上頂き有難うございます。下記に操作手順の概略を簡単にまとめましたのでご参考下さい。詳細は英文の取扱説明書をご参照下さい。

１．概要

DISAG　ＲＭ　Ⅳは、通常のエアーライフル(ＡＲ)，エアーピストル(ＡＰ)，スモールボアライフル(ＳＢ)，ランニングターゲット(ＲＴ)など、２２５ｍｍ幅の標的紙を全自動で採点する自動標的採点機です。
銃種は下記に略記号で示します。
ＡＲ－エアーライフル
ＡＰ－エアーピストル
ＳＢ－スモールボア
ＧＲ－(省略)
ＲＴ－ランニングターゲット
Ｓ１ｔｏＳ５－スペシャルターゲット１～５
エアーライフルは最大２発撃ち、ＡＰ，ＳＢは最大５発撃ちまで採点することができます。
ランニングターゲットの場合は１圏的に１発撃ちになります。
設定弾数以上、撃ち込まれた標的には採点不能として“＊”が印字されます。

この自動採点機はディスプレーとキーボードにより操作します。ＲＳ２３２コネクターやＵＢＳインターフェースを使用してコンピューターとの接続も可能です。採点結果は本体に内蔵されたプリンターで、直接標的にも印字されます。

本機を最初に起動させる前に、取扱説明書をお読み下さい。もし、操作項目について参照したい時は、この説明書の以降の見出しの記述をご参照下さい。

２．注意事項

－外装部を外す時は必ず本機から電源プラグを外して下さい。清掃、点検修理をする前に、プラグが外れていることを確認して下さい。
－**DISAG　RM　Ⅳ**は常に清潔にして下さい。カメラセンサーはレンズ拭きなどで清掃して下さい。内部機器の清掃に湿った布などを絶対に使用しないで下さい。
－本機からプラグを外す際には、線を引っ張らずに、必ずプラグ本体を持って抜いて下さい。
－線に損傷があったり、本体に明らかに損傷が見られる場合は**DISAG　RM　Ⅳ**の操作をしないで下さい。
－電装部品の修理は取扱の業者にお任せ下さい。素人の方の修理は身体的危険を及ぼしますので、修理しないで下さい。
－本機を操作をする前に、この説明書を良くお読み下さい。取扱説明書の指示に従わない操作をした時に起こる故障は保証されません。
－本機の裏に書かれている電源を確認して下さい。書かれている電源の定格を必ず確認して通電して下さい。又、本機のヒューズの定格も必ずご確認下さい。

一般的なご注意

－色濃く印刷された標的をご使用下さい。印刷の悪い標的は採点が不正確になります。
－標的紙の品質に気を付けて下さい。湿気の多い場所に置かれていた標的は、標的の弾痕が不鮮明になり、誤採点や採点不能を生じます。標的は平らで乾燥したところに積んで保存して下さい。規定の裁断をされていないターゲットバンドを使用すると、誤採点を生じます。
－ターゲットバンドを使用するときは、折り目や損傷の無い事を確認してからご使用下さい。

－ターゲットバンドを採点中は前後にバンドを押したり引っ張ったりしないで下さい。バンドは前方の差込口に入れると支持しなくてもそのまま、平らなテーブルの、吐出口後方へ出ます。
－単的を採点中は特に注意が必要です。採点中の標的が移動して印字されて出てきてから、新しく採点する標的を挿入して下さい。そうでないと紙詰まりの原因になります。
－採点用カメラレンズが曇りますので、周囲が寒いところから、暖かいところには移さないで下さい。
－いかなる目的であっても、誤った設置や取扱による本機の損傷については保証されません。
－本機の輸送中もしくは設置の際には振動を与えないで下さい。**DISAG　RM　Ⅳ**は目盛を測定する装置で、最大限の保護措置を取ることにより、良い結果が得られます。
－標的は本機の標的差込口から挿入する事により採点されますので、ご注意下さい。

３．設置方法

DISAG　RM　Ⅳは安定した平らなところに設置して下さい。採点された標的は本機を水平にすり抜けて行きますので、本機の前後には充分なスペースを確保して下さい。標的が採点機を真っ直ぐすり抜けるのを妨げないようにして下さい。
周囲の温度や湿度は適度に保って下さい。**DISAG　RM　Ⅳ**の操作及び保管は 5℃以上 40℃以下で行って下さい。

電源の接続

本機後ろの差込口にある電源の定格をご確認下さい。採点機の後ろの差込口に電源プラグを差込み、電源コンセント側にコンセントプラグを差し込みます。“ピー”と言う音と共に電源が入り、**DISAG　RM　Ⅳ**のディスプレーにバージョンナンバー
［DISAG　RM　Ⅳ／Ｖ１００・・・・・・］
が表示されます。常にこの型番で本機の操作をする準備が出来たことを示します。この表示の後、
［Type　1 ２３４５６７８９XXX／１０　AR　Target］
が表示されます。

標的の種別の設定

数種類の標準的な標的の種別は、“本機を最初に起動させる前に”のところで既に述べてあります。これら採点しようとする標的を入れるだけで、いつでも標的の種別を判別して採点します。
本機には８種類の異なった標的の種類が記録されています。記録されているデータは電源を切った後でも保存されます。３つの X には標的の種別の設定がされておりません。1 が点滅しています。点滅している番号がこれから採点しようとする標的の種類になります。

以後、この点滅を“カーソル”として標的の種類を指定します。
カーソルは、矢印“→”キーと矢印“←”キーで左右に移動させることが出来ます。Ｔｙｐｅ１からＴｙｐｅ８までの必要な標的の種類を、いずれかのメモリーで選択します。

重要：標準的な標的及び、ターゲットバンドは工場出荷時に識別機能を入力されています。
もし採点中に異なる標的を使用したときは、採点機が新種の標的として判断します。

識別機能で採点可能な標的の種類

Ｔｙｐｅ１：ＡＲ１０ｍ、１０連ターゲットバンド
Ｔｙｐｅ２：ＡＰ１文銭標的(フルリング：１７ｃｍ×１７ｃｍ)/ＡＰ4 号G
Ｔｙｐｅ３：ＡＲ１０ｍ、１文銭／ＡＲ９号G
Ｔｙｐｅ４：ＳＢ５０ｍ(２０ｃｍ×２０ｃｍ)
Ｔｙｐｅ５：ランニングターゲット
Ｔｙｐｅ６：省略
Ｔｙｐｅ７：ＡＰセンターペーパー(１３．５ｃｍ×１３．５ｃｍ)
Ｔｙｐｅ８：ＳＢセンターペーパー(１３．５ｃｍ×１３．５ｃｍ)
Ｔｙｐｅ９：省略

矢印キー“→”又は“←”を押して採点したい標的の種類を指定します。

中略

４　標的の採点手順

４．１　採点例１：ＡＲ９号G標的、１シリーズ、１発撃ち込み標的を１０枚の採点

矢印キー“→”を２回押してカーソルを[3]に移動させ、
［Type１２[3]４５６７８９XXX／１　AR－Target］
を表示させた後、“ＥＮＴＥＲ＊”キーを押します。
［AR　No. Shots／１　Shot］
(１圏的１発撃ち込みの意)が表示され、５秒後に
［Ready　**Type　３**　AR／N　２５０　　１　D］
が表示されます。
次に１シリーズ１０発の採点を設定します。
“SERIES”キーを２回押すと
［Evaluate　series／No　Series］→［Evaluate　series／Series　of　１０］
が表示され、５秒後に
［Ready　Type　３　AR／１０　２５０　１　D］
（１圏的１発撃ち、１シリーズ１０発）が表示されます。

４．２ 採点例２：AP４号 G 標的、１シリーズ、１発撃ち込み標的を１０枚の採点

通電後又は、４．１の採点終了後、“NEW-START”キーを押してから、矢印キー“→”または、“←”でカーソルを[2]に合わせ、
[Type　１[2]３４５６７８９XXX／AP－Target]
を表示させ、

“ENTER”キーを押し、
[AP　No.　shots／５　shot]（１圏的５発撃ち込みの意)を表示させます。
表示している間に矢印キー“→”又は、“←”で１圏的の撃ち込み弾数を設定します。１発に設定して“ENTER”キーを押すと
[Ready　Type　２　AP／N　２５０　１　D]
が表示されます。
次に１シリーズ１０発の採点を設定します。
“SERIES”キーを２回押すと
[Evaluate　series／Series　of　１０]
が表示され
[Ready　Type　２　AP／１０　２５０　１　D]
(１圏的１発撃ち、１シリーズ１０発)が表示されます。

４．３　採点例３：SB センターペーパー、１シリーズ１発撃ち込み標的を１０枚の採点

通電後又は、前述の採点終了後、“NEW-START”キーを押してから矢印キー“→”又は、“←”でカーソルを[8]に合わせ
[Type１２３４５６７[8]９XXX／SB　Target]
を表示させ、“ENTER”キーを押して
[SB　No.　shots／５　shot]
を表示させます。
前述の手順で、１圏的の撃ち込み弾数及び、１シリーズの弾数を設定します。

５．標的の差込み（1 枚ずつ）

標的の表を上にして、標的挿入口の左端に合わせ、右側のガイドを移動して標的と適当な隙間(約１ｍｍ程)を取ってセットします。

注意：標的紙の幅にガイドを合わせたとき、それぞれの標的を絶対に押し込んだりしないようにして下さい。ガイドを標的に押し付けたりすると、標的が破損したり、誤採点の元になりますので、ご注意下さい。

採点機の左側の挿入口に標的を差し込むと、光が感知して標的送りが回り始め、標的が引き込まれて行きます。

重要：標的が一度採点機に取り込まれた後は、いかなる事があっても手で押し込んだり引っ張ったりしないで下さい。DISAG　RM　Ⅳは測定機器ですので、取扱には充分な注意が必要です。

中略

採点する際は、標的を挿入口に置いて少し押してやると、採点読み取りをし始めます。

採点する標的の種類の変更

採点したい標的の種類を変更するには、“NEW　START”キーを押してから、矢印キー“→”又は、“←”を押して“カーソル”を移動して、採点したい標的の種類を指定します。
ディスプレーに、標的変更の可否の問い合わせ事項が現れます。変更を確認するには“ENTER”キーを押します。　“ESC”キーを押すことで、設定した標的の種類を取り消さずに設定を中断する事が出来ます。
標的の種類を新しく設定する手順は、組み込み操作手順に従って行って下さい。

しかしながら、**DISAG　RM　Ⅳ**のプログラムは非常に判りやすく提供しています。種々の操作キーの機能は後に述べてあります。

６．操作キーの機能(キーボード)

DISAG　RM　Ⅳ自動採点機はキーボード上の２０のキーで操作します。
一度、操作キーで設定をすると、標的を採点する際には、他のキーを操作する必要がありません。一度標的の種類を記憶させるだけで、自動的に標的紙の幅を識別する事が出来ます。
同様に､本機に採点したい標的を採点機に挿入するだけで､数種類の標的紙の幅を識別します。

６．１　ESC キー

ESC キーは入力中の設定を中止します。又、例えばこのキーで進行中の、標的の種類を設定するのを中止出来ます。送りローラーの作動をこのキーで止めることが出来ます。ローラーの作動を開始させるには矢印キー“←”又は“→”を押します。(誤って矢印キーに触れてしまい、ローラーが作動した際は、“ESC”キーを押すと停止します。標的が傾いて挿入されて、途中で送りが停止した場合は、矢印キーを押すと標的が採点されずに排出されます。)

６．２　SERIES（SERIE）キー

“SERIES”キーは実行するシリーズの得点を表示させる事が出来、採点するシリーズの弾数の得点を表示します。“SERIES”キーを押すごとに下記のとおり、１シリーズごとのの弾数を設定することが出来ます。(矢印キー“→”又は、“←”を押して設定することも出来ます。)
［No　Series］
［Series　of　１０］
［Series　of　２０］
［Series　of　３０］
［Series　of　４０］
［Series　of　５０］
［Series　of　６０］
［Custom　series］
と変わっていきます。
起動時は［No　Series］に設定されていますので、選択メニューで直に設定出来ます。
［Custom　series］は設定者の希望するシリーズに合わせて設定出来ます。必要とするシリーズの選択は、“ENTER”キーで確認出来ます。この設定は本機の電源が切られた場合、記憶されません。設定したシリーズを恒久保存する場合は、“本機の構成”をご参照下さい。不完全なシリーズは“SERIES”キーを押した後、“CLEAR”キーを押して削除出来ます。

標的採点の例：**４．標的の採点手順**の項、ご参照下さい。

中略

６．３　DIVIDER（TEILER）キー

分割メニューは“DIVIDER”キーで進行します。“ENTER”キーを押して、分割をディスプレーに表示させ、“CLEAR”キーを押して表示をさせたり、消したり出来ます。その後、採点する標的の最大分割が表示されます。設定は “ENTER”キーで入力します。
新たに最大分割を設定する必要がある場合は“ENTER”キーで入力の確認をします。
最大分割は分割する等級で表示(印字)された限定の値です。

最大に分割されたものだけが表示(印字)されます。より大きい分割は採点されません。
この設定は、“ESC”キーで消去出来ます。入力した設定は、採点機の電源を落とすと消去されます。設定を恒久的に保存する際は、説明書の“本機の構成” の項目をお読み下さい。

６．４　SHOT（SCHUSS）キー

採点する標的の種類の１圏的の撃ち込み弾数は“SHOT”キーで変更出来ます。次に採点する標的の、可能な撃ち込み弾数はいつでも “SHOT”キーを繰り返し押すことで、省略出来ます。
撃ち込み弾数は矢印キー“←”又は“→”で変更することも出来ます。選択された撃ち込み弾数は“ENTER”キーで確認及び継続出来ます。
与えられた設定は、“ESC”キーで消去出来ます。入力した設定は、採点機の電源を落とすと消去されます。設定を恒久的に保存する際は、説明書の“本機の構成”の項目をご参照下さい。

６．５　１／１０　キー

小数点以下の採点をするか、採点しないかは、“１／１０”キーで設定します。“ENTER”キーで“YES／採点する”、“CLEAR”キーで“NO／採点しない”と、なります。
設定中のところをカーソルが点滅します。
その後の設定で、１０点圏を１０分割します(小数点以下を表示)。 “ENTER”キーで YES／実行、“CLEAR”キーで NO／拒否となります。
設定は、“ESC”キーで消去出来ます。入力した設定は、採点機の電源を落とすと消去されます。設定を恒久的に保存する際は、説明書の“本機の構成”をご参照下さい。

６．６　ＥＮＴＥＲ　キー

“ＥＮＴＥＲ”キーは選択可能なすべてのプログラムメニューにおいて、入力を確認するのに使用します。ディスプレーには<＊>で表示され、“ＥＮＴＥＲ”キーで一致させます。

６．７　ＣＬＥＡＲ　キー

“ＣＬＥＡＲ”キーは入力の削除や、すべてのメニューを表示させたり、選択可能なプログラムを消去するのに使用します。ディスプレーには<#>で表示され、“ＣＬＥＡＲ”キーで一致させます。
一度採点された標的の得点は矢印キーを押した後、“ＣＬＥＡＲ”を押して入力出来ます。
更に、不完全なシリーズが表示された時は、“ＣＬＥＡＲ”キーで消去出来ます。

６．８　ＮＥＷ(ＮＥＵ)　ＳＴＡＲＴ　キー

採点は“ＮＥＷ　ＳＴＡＲＴ”キーを押すことで、再スタートしたり、自動読込処理により新しい標的の採点が出来ます。
シリーズ中に“ＮＥＷ　ＳＴＡＲＴ”キーが押されると、ディスプレーに失敗メッセージが表示されます。（ＳＥＲＩＥＳキーの項目参照）

“ＮＥＷ　ＳＴＡＲＴ”の機能については、先に説明致しました。

６．９　ＭＥＮＵ　キー

標準的な設定は、“ＭＥＮＵ”キーを押して表示させ、変更することが出来ます。“ＭＥＮＵ”キーは未設定の項目がディスプレーに表示された時のみ使用します。“ＥＳＣ”キーを押していつでも未設定メッセージに切り替える事が出来ます。

重要：機械の構成の標準的な設定を変更後、ＤＩＳＡＧ　ＲＭ　Ⅳの電源を落としても保存されます。標準的な設定の未熟な変更は、採点機により規定された採点結果に影響を及ぼします。誤った取り扱いにより生じた修理や、それにかかる費用は保証対象外です。

“ＭＥＮＵ”キーを押すと
[Ｓｔａｒｔ　ｗｉｔｈ<＊>／Ｃｏｎｆｉｇｕｒａｔｉｏｎ]
と表示が出ます。“ＭＥＮＵ”キーを押していくとメニューが選択出来ます。
“Configuration”“Typechange”“Inner Ten”など。示されたメニューは“ＥＮＴＥＲ”キーで呼び出しが出来ます。

“Configuration”メニューから始めましょう。矢印キーで進めたり、戻したりのスクロールが出来ます。後の記述を見るには“→”キーを押します。

６．10　Inner Ten

6.9 の操作で**“Inner Ten”**を表示し「 Active 」に設定します。着弾点が「 X 」圏 にかかっていると「10 ○」と印刷されます。
もしお手持ちのRM-IV が うまく作動しない場合は RM-IV と PC を付属のケーブルで接続し http://www.disag.de/ にアクセスして 「 DOWNLOAD 」→ 「 Software 」→ 「 Flash-Update RM-IV 」→ 「 Download 」をクリックして「 Version 1.21.2 」をRM-IVへ直接ダウンロードして下さい。

以下省略

輸入発売元
東京都中央区銀座 6 丁目 14 番 19 号
株式会社　銀 座 銃 砲 店
TEL 03-6226-6133
FAX 03-3543-1444
（2009 年 4 月）